

■ 平成 29 年度 第 1 回 新潟市立西川図書館協議会

日 時：平成 29 年 6 月 29 日（木）午後 2 時～

会 場：西川学習館 研修室 C

（小林会長）

それでは、議事に入り、次第に沿って進めさせていただきます。

はじめに、報告事項の 1 番目「平成 28 年度図書館運営報告」について、事務局から説明をお願いします。

（事務局）

平成 28 年度の図書館の運営の報告を申し上げる前に、初めての委員も多くいらっしゃいますので、新潟市の図書館がどのようなことを目指して事業を行っているか簡単にご説明させていただきます。お送りした資料の一番後ろ、「ほんぼーと B メール」をお開きください。

『新潟市立図書館ビジョン』は、新潟市の行政計画である未来ビジョンと教育委員会の教育ビジョンに基づいて作成し、計画期間の平成 27 年から 31 年度までの後期施策・事業計画の概要が掲載されています。一番上に書かれた「心豊かな都市（まち）づくりを支える市民の身近な学びと情報の拠点」を図書館は目指しています。

そして、そのために四つの取り組みを行っています。一つ目が、「ネットワークを活かした課題解決型図書館」です。新潟市立図書館全 19 館がコンピュータシステムで図書の一元管理を行い、本の運搬車が回り、どこにいても、どこからでも図書を取り寄せることができ、どこから借りたものでもどこにでも返すことができます。その下、「特色ある地域づくりに寄与する分権型図書館」、このような図書館協議会が各区にあるということも分権型図書館ということに結び付いています。

それから「子どもの読書活動を推進する学・社・民融合型図書館」です。このことについては『第二次新潟市子ども読書活動推進計画』というのがございまして、右側のページにこの計画の概要が書かれております。主な取組としましては、家庭では「うちどく」を行い、図書館では「赤ちゃんタイム」などを行ったりしています。それから「ブックスタート」も行っています。「ブックスタート」は、新潟市の健康福祉課が 1 歳誕生歯科検診というものを行ってまして、9 割以上の子どもさんが参加しています。そこで歯科検診が終わった後でボランティアの皆さんから絵本の読み聞かせをしていただき、絵本を 1 冊プレゼントするというものです。

それから、保育園・幼稚園に向けたいろいろな取り組みと「学校図書館をパワーアップ」と書かれています。学校については、新潟市はすべての学校に学校司書を配置し、市立図書館に

ある四つの学校図書館支援センターが学校図書館の活用が進むように支援を行っています。そして地域でも市民と協働してさまざまな取り組みを行っています。

また左側のページに戻っていただきまして、最後の四つ目「市民参画と協働を推進するパートナーシップ型図書館」です。

この前のページにはさらに詳しい取り組みが書かれています。お時間があるときに、ぜひ、ご覧いただきたいと思います。

(事務局)

28年度の事業について報告をさせていただきます。お配りの「資料3 平成28年度の事業報告」をご覧ください。

まず1ページ目、西川図書館、岩室図書館、渦東図書館、巻図書館の順で事業が掲載されています。その中で広報・企画展示、児童対象、一般対象、それぞれの対象ごとに事業をまとめてあります。

それでは、西川図書館からご報告いたします。「1 広報・企画展示」では『西蒲としょかんだより』を西蒲区4館合同で発行しています。本日、お手元にお配りしたものがあるかと思えます。各館の事業のおしらせや本の紹介、事業の報告などを記事として掲載しています。関係の各図書館や新潟市の様々な施設に配布し、最近では近隣のスーパーや病院などにも設置のお願いをして回っているところです。

続きまして「企画展示」では、西蒲区の各図書館の資料を活かした展示を定期的に行っています。

さらに下に進みまして「2 児童対象事業」では「えほんのじかん」と「えほんよみかたりの会」を開催いたしました。なお、「えほんよみかたりの会」は読み聞かせボランティアによる絵本の読み聞かせになります。こちらは参加者が前年度より50名ほど増加いたしました。ブックスタート事業に関連して、乳幼児とその両親による参加者が増えているものと考えられます。

では次のページの一番上にあります「ブックスタート」は、先ほど山下館長から説明がありましたが、1歳誕生歯科検診のときにボランティアの方に絵本の読み聞かせを行ってもらい、その後に3冊の絵本の中から1冊プレゼントして、絵本を通じて親子のコミュニケーションを図ってもらおうという取り組みになります。

それから進みまして、以下の項目については資料のとおりとなります。

一番下の「(2) 講師派遣・体験学習・視察等」について説明をさせていただきます。講師派遣は、図書館から職員をそれぞれの施設に派遣して、絵本の読み聞かせや、手遊び等を行うものです。その下の体験学習では、職場体験学習として中学生等を受け入れして図書館のさまざまな業務を仕事として体験してもらうものになります。

次の3ページ目、「視察・施設見学・読み聞かせ等」では見学をお申し込みいただいた保育園や小学校に館内をご案内して、職員が絵本の読み聞かせをしたり、見学のお子さんたちに貸出カードを作っていただき、本を借りていただいたりというような取り組みを行っております。

その下、「3 一般対象」の事業では、西川図書館は昨年度、共催事業として「西蒲区 輝く子育てフェスティバル」と「西川クリスマスコンサート」を行いました。両方とも非常に多くの参加がありました。

次の5ページ目、岩室図書館の事業報告に移ります。岩室図書館でも児童対象の「おはなしのじかん」を行っておりますが、こちらは定例で行うものは職員が行うもののみになります。次に6ページ目、「講師派遣・体験学習・視察等」については記載のとおりとなります。

「3 一般対象事業」の秋の読書週間事業「なじらね? この本」は西蒲区4館の共通事業として実施しました。おすすめの本を付箋に書いて貼ってもらうイベントです。

また、その下の「冬のらいぶらりーツアー」も西蒲区の4館共通事業として実施したものです。西蒲区の4図書館で本を借りて、各館のシールを集めて景品をもらうというものです。進んでいただきまして7ページ目は記載のとおりとなります。

続いて潟東図書館の報告に移ります。8ページ目の「おはなしのじかん」ですが、潟東図書館も定例の「おはなしのじかん」は職員が行うもののみとなります。なお、28年度から「あかちゃんタイム」を行っている関係で、新規で0から2歳児向けのお話の時間を毎週行いました。参加人数は、それに伴って前年度から90名程度増えております。以下、児童対象事業に関しては資料のとおりとなりますが、比較的西蒲区の図書館の中で児童向けの事業を多く行っている図書館です。

最後に11ページの巻図書館の報告に移ります。定例の「おはなしのじかん」で職員が実施しているものは、前年度より参加人数が20名ほど増えました。また、ボランティアによる「おはなしのじかん」は前年度とほぼ同程度の参加者数となっております。

次の12ページの「3 一般対象事業」では、共催でコンサートや郷土をテーマにした講座を実施しました。それが「西蒲区本の森コンサート in 巻図書館 part. 3」と「西蒲区本の森講座 in 巻図書館」です。なお、28年度の新規事業として、「ビジネス支援セミナー」を実施いたしました。以上で、西蒲区の平成28年度の事業報告を終わります。

続きまして「資料4 図書館・地区図書室の蔵書・利用状況」について、引き続き説明をさせていただきます。

まず、こちらの表を見ていただきまして、一番上に3年間の数字、平成26年度、27年度、28年度とあるものが新潟市立図書館全体の数字となります。蔵書数は年々増加しておりますが、右側の貸出冊数、貸出人数など、これは1日平均を見ていただくと分かりやすいと思いますが、

年々減少の傾向になっております。

次に西蒲区はどうかと、下の方に目を向けていただきますと、表の一番下が西蒲区で、それぞれの図書館ごとに統計数字が出ております。なお、配付資料に前年度の数字はありませんので、私から口頭で前年度の利用数と比較して説明させていただきます。

まず西川図書館は1日平均貸出人数は1人、貸出冊数でいうと12冊、それぞれ減少しております。岩室図書館が前年度と比較して1日平均貸出人数は1人、貸出冊数は4冊減少しております。その次の潟東図書館は1日平均貸出人数が1人、貸出冊数が5冊、こちらは増加しております。最後に巻図書館ですが、1日平均の貸出人数が3人、貸出冊数が16冊減少しており、潟東を除いて全体に微減という状況になっております。なお、地区図書室は開室日に対して利用が非常に少ないため、1日平均で見たときにこのような数字になっておりますが、昨年と比較して年間の貸出人数を全体でみたときは29人、貸出冊数4冊の減になっております。新潟市のほとんどの図書館で、利用が減少している状況になっております。その中で潟東は今回増加していたのですが、そのほかに坂井輪図書館も増加しており、この2館のみが利用は微増となりました。以上で、簡単ではありますが、資料4の説明を終わりたいと思います。

(事務局)

では、続きまして「資料5 図書館へのたより」です。平成28年度の実績になっております。件数的には、西川7人、岩室0人、潟東2人、巻6人ということで、昨年度は4館合わせて15件のたよりがありました。

内容は下にあるとおりです。①②③④と項目別に分けまして、図書館資料に関するものが4件、施設・設備に関するものが6件、図書館の運営に関するものが2件と、その他2件です。上の各館の合計と合わないのは、別の方から同じような意見があがっているものをまとめたためです。施設や設備に関するご意見が多くありますが、運営では、西川ではスタッフがいつも明るく笑顔で対応し、質問にも丁寧にこたえてくれて感謝しているという喜ばしい意見もいただいております。

(小林会長)

それでは、今の報告事項の「平成28年度図書館運営報告」ということで資料3から資料5まで、それから山下館長の方から、『新潟市の図書館ビジョン』の説明がありました。今の事務局からの説明の中で何かこのところを確認したいとか、質問事項等がありましたら、順番関係なく結構です。いかがでしょうか。急に言われてもご発言が難しいようでしたら、次の議題までいって、あとでまとめても結構なのです。

(大西委員)

貸出冊数とか、人数が減っているというのは利用状況のところでお話をお聞きしたのですが、

毎年減っていますか。

(山下館長)

日本全国の図書館で貸出冊数が減っているというふうに言われるようになったのは、2011年くらいからです。東日本大震災で図書館が使えなくなったというようなことがあったかと思うのですが、その前からやはり特に都会のほうから図書館の利用が減ってきたと思います。ただ、全国的に減っている中で新潟市の場合は、合併建設計画の中で図書館を造ってほしいというところがいくつもあり、亀田図書館、巻図書館が新しくでき、坂井輪図書館がリニューアルオープンし、その前に中央図書館が平成19年にできたということで、新潟市の場合はあまり減少傾向になかったのですが、やはりここ数年、減ってきています。理由として皆さんが真っ先に思い浮かべられるのが、インターネットの利用ということがあるのかと思います。

(大西委員)

この数字だけ見ていると分からないと思ったのですが、西蒲区の図書館は結構頑張っているとは思いました。というのは人口比で比べてみると、八つの区の中で西蒲区は下から2番目で、新潟市の7パーセントくらいですが、面積が一番大きいのです。だけど、冊数とか貸出人数で見ると、中央区、それから西区に次いで3番目が西蒲区なのです。だから、西蒲区としては人口が少ないわりには利用している人が多いのではないかと思います。ただ、広い面積の中で図書館が点々とあると、なかなか図書館まで行けないという人たちも多いし、高齢化率も高いので、やはりもう少しそういうところを考えていったらいいのではないかと思います。私は西川の図書館を利用している方も多し、図書館も頑張っているのではないかと思います。

(小林会長)

ほかに、いかがでしょうか。

(高木委員)

利用する方は、年代別に見るとどうなのでしょう。例えば60代、50代の方が多いのか、あるいは真ん中のところがあまりなくて、それから中学校あたりはわりと少ないのではないのか、年代的にどうなのでしょう。

(事務局)

新潟市全体で以前に調べた結果、今お仕事真っ盛りの方は、図書館においでになる時間がなかなかないという傾向があると思います。

(高木委員)

小・中学生はどうなのでしょう。

(事務局)

今手元には、その辺の数字は持っていません。

(高木委員)

幼児は結構お母さんと一緒に来ますが、中学校、あるいは小学校のクラブや部活で頑張っていますので、その余裕がないのでしょうか。

(西村委員)

中学生は、私たちが中学生の頃よりも非常に忙しいという現状があります。西蒲は特に部活が盛んな中学校が多く、部活に参加することを奨励している中学校が多い。中之口は希望制です。入らなくてもいいことにはなるのですけれども、ほとんど95パーセント以上は参加しています。残りの5パーセントくらいは地域の生涯学習スポーツですとか、そういうところに入ってほぼ100パーセント近い人たちが放課後の部活動に専念していると、図書館に来る時間は平日は基本的には無理で部活が終わったら家に帰るのです。だから、土日はというと、練習試合などがあります。現実問題、時間が見いだせない形ですので、そこにてこ入れをして図書館の利用を呼びかけるのは厳しい現状があります。

(石井委員)

私も中学に関わっているのですが、学校には図書室もあります。中学生が昼休みとか休み時間に利用するというのが減っているというか、あまりない状況なのに、また図書館に行くかという話なのです。うちの子どもの場合、中学校の図書室にないような小説を結構潟東図書館から借りていました。

(事務局)

西川に学校図書館支援センターがあると先ほどお話ししましたが、今くらいの時期、学校に訪問させていただいています。校長先生とお話をさせていただき、学校図書館を見せていただきます。そうすると、今、公共図書館では予約が多数のベストセラー本で、本屋大賞を受賞した恩田陸の『蜜蜂と遠雷』などが中学生に勧めたいということで書架に並べてあり、借りられていなくてもったいないと思うのですが、中学生は昔もあまり読まなかったみたいです。

(西村委員)

そう思います。授業以外。

(事務局)

中学校の図書館の一人当たり貸出冊数は約十数冊です。小学校になると100冊を超えています。

(石井委員)

小学校から中学になるとなんで減っていくかということ、部活とかテストとかいろいろなものがあり、時間がないのかなというのがあります。市立図書館で予約が多数で順番待ちでも、私

の知っている 50 代位のおかあさんは、それでも気長に待つと言っています。そうした年代の人は買うのがもったいないから、順番待ちだけどそれでもよいという方がいるのです。だから年代によって、借り方が違うのかというのもあります。

(小林会長)

話が盛り上がっていいのですが、先に進んであとでもう一回、また伺いたいと思いますので、議論を進めさせていただきます。

「② 平成 29 年度図書館事業及び予算について」、「③ もっと身近な図書サービスに向けた改善」を事務局のほうから説明をお願いいたします。

(事務局)

では、「資料 6 平成 29 年度の西蒲区図書館予算一覧」で説明いたします。ご覧の表では予算の枠組みが、大事業、中事業、小事業と分かれておりまして、大事業には三つの柱があり、「生涯学習施設の管理運営」、その下、「学び育つ各世代への支援」、「多様な教育の機会・支援体制の整備」とあります。その隣の中事業は四つに分かれ、さらに小事業は 10 に分けられまして、「生涯学習施設管理運営」は、西川図書館、岩室図書館、潟東図書館、巻図書館の管理運営費と図書館協議会費と日本図書館協会の負担金が入っています。次の「学び育つ各世代への支援」は小事業が三つになりまして「読書普及事業費」、これは「資料購入費」と「読書普及事業費」があります。次に「子どもの読書環境整備」と、最後は「多様な教育の機会・支援体制の整備」では「読書環境整備事業費」があります。

予算額は記載のとおりです。右側のほうに前年度との比較がありますが、予算額はすべて減少しています。一番下の平成 28 年度の予算の額は「7,150,9 千円」に訂正をお願いいたします。裏面の「平成 29 年度西蒲区図書館予算説明書」に主な事業の内容が記載されています。

(事務局)

続きまして、「平成 29 年度の事業計画」のご説明をいたします。新潟市全体、西蒲区全体でそして、各図書館事業の順にまとめてあります。その中で広報・展示、児童向け、一般向けの順で上から事業を記載しております。なお、開催日が未定の事業は開催日実施日の欄が空白となっております。

それでは 1 ページ目が新潟市全体の事業報告となります。その中で上から 2 段目の「赤ちゃんタイム実施」は前年度より開始しているものです。岩室図書館の「おはなしのじかん」が前年度より毎週土曜日の時間に変更となり、回数が今年度から増えております。それ以外に関しましては、資料に記載のとおりとなります。

続きまして、2 ページ目をご覧ください。上の段が西蒲区全体の事業をまとめているものです。上から 3 段目、「西蒲区共通おはなしのじかんスタンプカード」は、平成 29 年 3 月から実

施しています。これは、職員やボランティアによる「おはなしのじかん」に参加した方にスタンプカードを配布し、「おはなしのじかん」に参加するごとにスタンプを押して、スタンプが集まるとオリジナルのポストカードをプレゼントするという取り組みです。「おはなしのじかん」の参加者の増加を目的とした事業となります。

次に西蒲区のそれぞれの図書館について説明いたします。まず、西川図書館をご覧ください。8月6日に「西川サマーコンサート」を、前年度のクリスマスコンサート同様に、新潟オペラスタジオと共催で多目的ホールを会場として実施する予定です。また、同様の共催事業といたしまして、「西蒲・曾野郷ゆかりの文人展」を西蒲・曾野郷ゆかりの文人研究会と共催し、郷土に関する展示を行います。10月に同じく多目的ホールを会場として実施する予定です。

続きまして3ページ目、岩室図書館では前年度に引き続き、子育て支援センターで絵本の読み聞かせを予定しています。

続いて潟東図書館では、新規事業といたしまして「豆本作り」というものを行いました。

続きまして巻図書館では来月、本の森巻さんとの共催で、「本の森 語りの夕べ」を行う予定です。本年度もビジネス支援セミナーを新潟IPC財団と協働で行う予定です。簡単ではありませんが、以上で平成29年度の事業計画の説明を終わります。

(事務局)

続きまして、資料8をご覧ください。これは、29年度の事業ということでは少し趣が変わるのですが、今年度実施予定のものになりますので、同じ並びでご説明申し上げます。

「もっと身近な図書サービスに向けた改善」についての報告です。昨年度から新潟市立図書館で検討しています「もっと身近な図書サービスに向けた改善」については、今年の3月の開催後、各図書館協議会で協議していただきました。その後、3月29日に七つの図書館協議会の代表にお集まりいただきまして、その際の意見をまとめたものがこちらの資料となります。ただ、このサービスの内容について初めて聞くという方がいらっしゃいますので、簡単にご説明いたします。資料の裏側をご覧ください。

新潟市には地区図書室が25ございます。地区図書室は図書館が整備されてきた地域もあるので、非常に利用が少ないところがあります。それらの地区図書室の資料を有効に活用して、図書室でなくても身近な場所で本をご利用いただけるようにしようというものです。先ほど大西のほうから話がありましたが、例えば西蒲区の三つの地区図書室では、1日当たり1人というような利用状況だったり、資料購入費も少ないのですが大勢の方にご覧いただくために、ベストセラーのようなものを購入することが多くなります。地区図書室はオンライン化されていませんので、ベストセラー一本もほんの数人の方がお読みになってそれで終わり、いつまでもそこに置いてあるという状況で、本が有効活用されていないという考え方です。

このための取り組みが二つあります。一つは、上のほうに書いてあります「新しい団体貸出制度の拡大」ということです。各地区図書室に分散していた図書資料を集約して、身近な場所へ新しい団体貸出を展開いたします。今まで団体貸出の相手先というのは、左側の四角囲みにあります半公共的な施設がほとんどでした。ひまわりクラブであるとか、保育園、学校、読み聞かせのサークルとか福祉施設などで、これを拡大したいと考えております。コミセンであるとか、まちづくりセンターであるとか、地域の茶の間など、その他、人の集まる場所、団体であるという要件を満たすところには貸し出す。地区図書室で使わなくなったもの、あるいは利用の少ない地区図書室を廃止して、それらの本を各種テーマ別に用意いたします。子ども向けや、郷土資料などに分けて、それらをコンテナに入れて貸出をする。図書館においでになれなくても、言っていれば資料は送料負担でお送りします。それから、利用者からのオーダーメイドで、こういう関係の方が読みたいという要望に合わせて、図書館の職員が本を集めて、それをお貸しするということができます。

二つ目は連絡所での「予約受取サービス」の導入です。旧新潟市域では、連絡所と同じ施設に設置された地区図書室がいくつかあります。そこで市内の連絡便を使って本の受取ができるようにするというものです。これにつきましても、その地区図書室を廃止して、広く新潟市の図書館全体から本の予約の分を受け取っていただくというものを考えています。

そして、表側の方をご覧いただきたいと思います。この内容について各図書館協議会でご協議いただきまして、各図書館協議会の会長と副会長にお集まりいただいて話し合われた意見がこれらのものになります。各図書館協議会での意見が、①番目の団体貸出拡大についての主な意見としては、「こういう制度によって様々な場所で本を利用しやすくなるのは良いことだ。」というふうに、概ね賛成という意見が多かったです。工夫を求める意見としては、「仕組みはいけれども、その場でしか読めないのではもったいないので、又貸しを想定した運用を考えてほしい。」という意見がありました。これは具体的に、例えば地域の茶の間の方が団体貸出を受けた場合、そこに置いておいて、そこにいる間だけでなく自宅に持って帰りたいのではないかということ。ただ、団体貸出の場合でも、もし本をなくされたり傷めたりした場合は弁償していただく形になります。

②番目予約本受取サービスの実施については、「住民に周知を図ればうまくいく可能性はある。図書館の本を連絡所などで受けることができれば便利になる。」というふうに評価する意見のほか、工夫を求める意見としては「電話やネットで予約して受取場所が連絡所になるというだけで良いと思う。」「どういう本が借りられるのかを利用者にわかるようにすることが課題」という意見がありました。これは、並んでいない本を求めて借りるということになりますので、どんな本が図書館にあるのかというのが分からないのでは困るということです。

③番目、地区図書室資源の有効活用についての主な意見としては、「地区図書室の廃止や見直しについては、地域の理解を得て進めてほしい」「地区図書室を地域に任せることは考えているのか。色々なところとの連携を考えてみてはいかがか。横のつながりも考えて実施したほうが良い」など、慎重に進めてほしいという意見がありました。

「2 各正副会長からの意見」としては、実施する側も利用されるほうも使いやすいやり方が必要である」「団体貸出では又貸しも含めた利便性の確保が必要である」「地域団体、行政内外との連携をよく考えて仕組みを作ってほしい」「地区図書室の活用については、地域などの実態をよく把握したうえで進めてほしい」、これらの意見が出ていました。このような意見を踏まえて準備して、29年度にモデル実施をし、この結果を踏まえて30年度にどういうことができるか、どこまでできるかを皆さんに報告しながら考えていきたいということで、正副会長会議が終わりました。

また、今後の予定が一番下を書いてありますが、平成29年度10月から「予約本受取サービス」は5か所、南浜と大畑、両川、赤塚、中野小屋地区図書室で試行的に実施いたします。西蒲区は連絡所と一緒にしているところがございませんので、このサービスの対象とはなりません。

2番目の新たな団体貸出制度については、試行ではなくて10月からの実施に向けて、ただいま制度についての検討や利用の案内などの作成を進めています。

3番目、実施にあたっては、コミ協や地域住民の方への説明を行うことになっています。以上で、資料8の説明を終わります。

(小林会長)

ありがとうございました。「平成29年度の図書館事業及び予算」、それから「身近な図書サービスに向けた改善について」ということで、資料8まで説明をいただきました。今、中身の説明をしていた部分について、内容の見えないところだとか、確認したいところ、あるいは質問等がありましたら、皆さんから聞きたいと思います。いかがでしょうか。

(事務局)

少し補足なのですが、先ほど福島委員が高齢者に向けたサービスということをおっしゃられたのですが、潟東図書館では潟東デイホームにて絵本の読み聞かせなどを行っています。また、新潟市全体では高齢者福祉施設向けにご利用いただける本を集めた「いきいきボックス」というのを作っています。これは市の担当課を通して新潟市の高齢者福祉施設にご案内申し上げていて、西川図書館では西区の高齢者福祉施設の方が本を借りにおいでになっています。

その他、図書館の読み聞かせのボランティアの方などが高齢者の施設で読み聞かせや語りをなさっています。

(小林会長)

ありがとうございました。それでは、何かご意見等がございましたら、お願いいたします。

(大西委員)

予算のことなのですが、西川の多目的ホールの管理にどのくらい使われるのでしょうか。

(事務局)

多目的ホールだけを切り離してお答えすることは難しいです。ただ、西蒲区の図書館予算の一覧を見ていただくと、西蒲区の図書館の中で潟東図書館だけが「ゆう学館」と複合で、それ以外は西川、岩室、巻も独立した施設であり、旧新潟市域の公民館などと複合している施設と比べると施設の管理運営にかかるお金は非常に大きいと感じています。

(大西委員)

多目的ホールは図書館の職員がかかわるわけですね、何か催し物があると管理しているわけですから、図書館の職員も足りないのではないかと思います、そうでもないのですか、大変ではないのですか。

(事務局)

大変です。多目的ホールの運営については、平成27年までは公民館でやっています。経緯は佐藤会長さんが一番よくご存じなので、おっしゃりたいのだらうと思うのですが、西川町が合併前に多目的ホールを計画し図書館と併設になりましたが、図書館がホールの運営を行うのはふさわしくないということで、運営については公民館が、施設管理については図書館が行っていました。その後、運営と施設管理が分かれていると多目的ホールの活用が進まないというご意見をいただきまして、図書館が運営も含めて行うことになりました。実際に運営と申しましても管理人が常駐しておりまして、申込みなどは管理人のほうが行っていますが、利用がもっと進むように考えることなどは図書館が行っていかなければいけないと思います。ホールがあることで図書館がコンサートを رفتたり、展示会を協働で行ったりということができればと、そのように考えています。800人収容のホールですので、こんな大きなホールと一緒にいる図書館は新潟市ではここだけですので、誇っていいことだと思います。佐藤会長さん、いかがですか。

(佐藤委員)

私、委員を仰せつかって10年になります。その中でいろいろな予算、また事業計画、いろいろな話を聞かせてもらいました。しかし、私どもの図書館という中で、地元ということで私は西川図書館を承知しているのですが、そのほかに岩室だったり潟東であったり、巻であったりという中で、施設に足を運んで、どのような形でどういう運営しているかというのは私

はまだ見えてこないのですが、皆さんに承知していただければ、私どものコミュニティ協議会にマイクロバスがあります。この次のいつでもよろしゅうございますが、皆さんが集まる時、せめて私どもの協議会を対象とするような施設に足を運んだらどうかと思ったのですけれども、皆さんが今から承知していただければ、コミュニティ協議会のバスがここに回ってきます。ここに座って、ただ計画書、予算こうです、企画はこのとおりですと言っても、それぞれの図書館がどういうふうな状況なのかというのが、まだ私も把握していないような状態で、個人個人で経緯を聞いたりするという、そういう機会もあってもいいのではないかなと、私は1期目のときに感じておりましたので、もしできれば、そういう計画を立てていただければと思います。

(小林会長)

佐藤委員のほうから今ご提案がありましたので、事務局のほうで検討していただきたいと思っています。話が変わるかもしれませんが、私は新潟市の水道事業の経営審議会の副会長を務めているのですけれども、一番最初に実はそういう話をしました。浄水場だとかいろいろな重要な施設だとか品質管理、試験場だとかを見たことがない人が集まっても、なかなかイメージが湧かないということで、やはり最初に関係するところを見る時間を少しとって調整して、それでだいぶ意見が活発に出たり、気がつかないこととかが出てきたりとかということがありますので、ぜひ、そういう形で調整なり検討していただければと思います。

(事務局)

ありがとうございます。検討させていただきます。コミ協さんのバスをお借りできるということですね。

(佐藤委員)

たいしていいバスではないのですけれども。県内くらいはいくらでも。運転協力金という形で半日5,000円プラス燃料代、1日利用した場合は1万円プラス燃料代というふうな形でやっておりますが、この協議会が予算がないということになれば、私どももいろいろ協力いたします。

(事務局)

ありがとうございます。

(小林会長)

事務局のほうで少し検討していただくということで、すりあわせなりということで、それらを皆さんのほうにフィードバックというか、いったん預かりということでもよろしいでしょうか。

それでは、先ほどの予算、事業計画、それから管理の中でのサービス改善に向けた意見等を含めまして何かご意見、あるいは気がついたことはございますでしょうか。はじめの28年度の図書館運営報告のときにだいぶ盛り上がって、途中で切れて終わった感じがありますので、そ

らのほうでも結構ですが、今までの報告事項の中で、ご意見があればお願いいたします。

(高木委員)

図書館のほうでいろいろな事業をたくさんやっておられて、図書館の事務の管理も含めて職員は非常に少ないわけです。少ない中でいろいろなことをやろうとしているわけです。どうしてもそこでボランティアというのが必要なわけですから、できるだけボランティアを募るような形も併せてやってもらえれば、例えば先ほどの西川の話もありましたが、他のところも私たちも行きますよというような声が出てくるかもしれない、ボランティアがいるかもしれない。できればボランティアを活用するような方法を工夫し、ボランティアに参加されている方々にもそういう話を出して、声かけなどもしていけば、徐々に広がっていくのではないかと思います。非常にいいものをどんどん受け入れしているわけですから、もっともっと有効に。

それから、先ほどの本の貸出の問題にしてもそうです。職員だけではなくても、必ずそこを担当する、例えば出張所やコミ協などを大いに活用してもらうような形、今、佐藤さんが言われるように、いろいろなところで協力できるものはしていきたいような発言もされておられますので、そのようなところもどんどん協力していくことも大事だという気がしました。

(事務局)

そのことで、委員の皆様にはお願いがあるのですが、新潟市民の図書館の登録率が2割くらいです。皆様はもちろん貸出カードはお持ちでいらっしゃると思いますが、お持ちでないようでしたら、ぜひお帰りに西川図書館で登録していただくこともできますということと、図書館がこのようなことをやっているとか、図書館にこのような本があるとか、もし今日初めて聞かれるようなサービス内容とかがございましたら、周囲の方にPRしていただけたらうれしいです。あまりPRが得意でないタイプの図書館が多いので、もう少しPRができたらいいのではというのはどこの協議会でも出てくるご意見なのですが、私どももPRを行ってまいります、お一人でも二人でも、お知り合いの方にお声がけいただけたらうれしいです。よろしくお願いいたします。

(小林会長)

ざっくばらんに何でも結構ですので、あと残っているのは協議事項だけですので。

(桑原委員)

前々からこういうコーナーがあったらいいなというのがあるのですけれども、よく本屋さんではドラマとか映画の映像化した本を特集して積んでいるような映像化コーナーがあります。うちも中学生と高校生の息子がいるのですけれども、今、部活で忙しいのですが、この間、本屋さんに入ったら、今話題になっている映画がありその映画を見に行く時間はないけれども、少し原作を読んでみようと思って買ってきて読み始めたら1日で読み終わって、この人の作品とか本

はおもしろいから借りてこようという、そこからまた本を読むきっかけになることもあると思います。だいたい中高生というのは、図書館に行ってもよほどの本好きでなければ何を読んでもいいのか分からないというのです。でも、そのきっかけづくりでそういうPRをしてほしいのですけれども、公共の場なのでこのドラマ化の本ですよとか、この映画の原作ですよというのは出せないものなのですか。

(事務局)

ほかの図書館で実際に行っていますので、当館でも検討したいと思います。

(桑原委員)

大々的にやると最新のものは、予約がついていて借りられているじゃないですか。

(事務局)

今まさに公開しているものになると、やはりどうしても動きが出てきてしまうので。

(桑原委員)

少し前で例えば二、三年前くらのでも、この映画やっていたな、少し読んでみようとかになるじゃないですか、そのような最新のものはやっていないかもしれないけれども、二、三年くらいのものであれば、映像、写真と一緒に出してけると、手に取ると思うのです。

(事務局)

中学校の図書館では、結構行われています。

(石井委員)

今、司書さんはいないのですけれども、正面玄関のところにこういうのが入荷しました、新刊入りましたと紹介されています。それを見ると、最近の映画になった小説だったりとか、そういうのが出ていたりして、そういうのを意識しながら買っているのかなというのは感じています。

(事務局)

映画の案内チラシをファイリングしている学校もあるのですが、今、映画化しているものは図書館ではチラシを置けないのだろうかとも考えています。

(桑原委員)

そういうのがあったらいいなとずっと考えていたのですけれども、公共の場だからやってはいけないことなのかなと思いました。

(石井委員)

でも、図書館はある程度時代に敏感になっていたほうがいいです。例えば藤井四段がいたから、将棋に関する本を表に出してみたりして、名人の歴史みたいな本、生涯とか、そういう一生ものの本とかを並べて将棋に関するコーナーを作ってみたり。卓球が結構盛り上がっている

から卓球に関するものを置いてみたり、今はやりのものを少しだけでもいいから表に出すと、関心を持ってくれる。

(桑原委員)

そこを入り口にして奥にどんどん入ってきますよね、多分。

(事務局)

図書館では年間である程度企画展示を計画していますが、昨年度もやったということになりがちです。

(桑原委員)

季節の展示は、正直、見ている人がいるのかと思ったりするけれども、たまに衣替えではないですが、いつもと違うと感ずることもあります。

(事務局)

そういう展示の仕方をこちらでももっと意識していきたいと思います。

(福島委員)

少し違うのですが聞かせていただきたいのですけれども、和納小学校のPTA対象でしょうか。行われる本の修理講座の講師はどこからいくのですか。

(事務局)

岩室公民館が学校出前講座という形で行い、西川図書館の学校図書館支援センターの職員のほうに依頼がありました。

(福島委員)

すごくいいなと思っていたのです。子どもも本を大事にするだろうし、ぜひ、その日に行ってみたいと思っています。

(事務局)

ありがとうございます。

(大西委員)

もう一つお聞きしてみたいのですが、読書ノートの配布というのがあります。これは新潟市で先着100名という、これはだいたい皆さんがもらって行かれてパッとなくなるものなのでしょうか。

(事務局)

すみません。ここが参加者数の項目だったので斜線が引いてあって、部数に関してはここには掲載はないのですが、現在も配布しておりまして、私も数字として今持っていないのですけれども、だいたい1、2冊とか日によっても違いはありますが、持っていられる方はいらっしゃいます。

(大西委員)

「うちどく」もでしょうか。

(事務局)

「うちどく」の事業の形でこちらから配布しているものになります。

(小林会長)

今ちょうど40分過ぎたくらいで、予定は4時と伺っています。あともう一つ協議事項が残っていますので、もしよろしければ協議事項のほうにいきまして、その後でまだ質問、意見等を出したりなかった分は余った時間にもう一度受けたいと思いますので、ここから協議事項のほうに移ります。「平成28年度図書館評価・平成29年度目標」について事務局のほうから説明をお願いします。

(事務局)

資料は、本日お配りしたのものになります。本日お配りした資料は2種類ございまして、大西が説明した資料が、後ろにほかに1枚あります。

図書館ビジョンの中で図書館のサービスや利用に関して評価を行い、その結果をもとに改善に努め、市民や利用者の満足度の向上を図るというふうに記載してあります。ただ図書館ビジョンの目標を立てただけではなくて、実際にそれが行われているか、改善の必要があるかということが毎年毎年書かれています。そして、その外部評価として、各図書館協議会委員の皆様にも評価をお願いしているものです。

評価の内容は2種類に分かれまして、一つが、このシートにあります表側のシートナンバー1、図書館ビジョンの四つの取組についての内容になります。もう一つが、裏側をご覧ください。これはシートナンバー2で、ご覧のとおり様々な利用の状況であるとか、参加者数であるとか、様々な数字についての評価ということになります。この数値は速報値であると平成28年度実績の下のところを書いてあります。統計数値の把握が難しく、4月に出したものが、後日違っていたということがよくあるのです。この現段階の数値が変更することもありますので、今回とりあえずこの速報値によって今年度の目標の数値を表しました。

また、シート1についても、ひとまず29年度の目標というのを表しました。今日はこれらの目標についてご意見をいただきまして、次回開催の10月以降に正しい数値により委員の皆様から評価していただくことになっています。昨年度までは協議会委員だった皆さんにとっては、今年度の流れが違うということがございます。なぜこのようになったかという一つが、正しい数値で評価していただきたいということと、もう一つは、2回目の図書館協議会を早く行い、いただいた意見を来年度の事業や予算などに、できれば反映したいということになっています。今日ご意見をいただきたい事柄については、今年度の目標についてということになるのですが、

若干シートナンバー 2 の数値についてご説明させていただきます。

上のほうは図書館運営にかかわる部分で、資料購入費や蔵書件数、貸出件数などということになりますが、こちらは目標の数値というものはございません。資料購入費、先ほど巻図書館の資料購入費が減ったためうちの庶務担当から話がありましたが、これは実際には 26 年度から 27 年度にいくところで開館後 5 年経過しているので、資料購入費を減らされたということになります。

下の区分の施策事業については各図書館とありますが、これは西蒲区全体の図書館の合計ということになりまして、例えば先ほどの四つの柱の中で、「ネットワークを活かした課題解決型図書館」では、レファレンス件数や個人の予約件数の目標の数値を出させていただいています。あと、「特色ある地域づくりに寄与する分権型図書館」では、郷土・行政資料の蔵書冊数であるとか、郷土・行政資料の貸出冊数、職員の派遣人数などが目標数値で挙げられています。そして、子どもの読書活動については、蔵書の貸出冊数であるとか、学校への団体貸出の工夫など様々なものが挙げられています。「市民参画と協働を推進するパートナーシップ型図書館」では、図書館ボランティア活動者人数や共催可能な事業の実施件数などがあげられています。以上、簡単な説明ですが、ご質問やご意見などがございましたらお願いします。

(小林会長)

山下館長の説明がございました図書館評価について、内容等について何かご質問等がありましたらお願いいたします。シート 1 が、目指す図書館の四つの柱です。それから下のほうが各施策、事業、西蒲区内の図書館全体についての各指標等ということ。

(事務局)

説明が不足だったので、すみません。シートナンバー 1 の柱が黒くなっているものは、中央図書館のものになります。やはりサービスは図書の貸し出しだけではなくて、図書館ではこういうことを調べたいのだという利用者の方のご依頼に対して、資料や情報などを提供させていただくというものなのですが、これはまだあまり知られていないということで PR していきます。

それから、「地域づくりに寄与する」は、西蒲区はそれぞれの地域に特色があって、いろいろな資料があり、それを一生懸命集めてきたのですが、昨年度から西蒲区の図書館では、西蒲区地域の資料コーナーというものを作りました、もしかしたら、これによって郷土資料の貸出冊数が伸びているのかなと思っています。

また、先ほど高木副会長さんがおっしゃった、ボランティアさんに一緒に取り組んでいただこうというのは、一番下にあります「市民参画と協働を推進する」ということで考えております。特に岩室図書館ではボランティアさんの取組が非常に少ないので、開館 20 周年を記念して

巻のような、例えば1年に1回だけ住民の方と一緒に取り組むということを目指していきたいと考えています。

(小林会長)

ありがとうございました。よろしいでしょうか。ちょうどあと10分くらいあるのですがけれども、今日は第1回目ということでいろいろ意見を伺ったわけですがけれども、自分から手を挙げておしゃべりというのに慣れていない方もおられるかと思imasるので、最後に山本委員のほうから何か一言くらいずつ一巡していただいて、終わりにしたいと思っているのですがけれども、そのような感じで進めてよろしいでしょうか。では、一言ずつお願いいたします。

(山本委員)

本日、初めて私はこういう会議に参加させていただいたのですが、図書館のほうでこれだけの事業をしているということが私自身も実は分からなくて、途中でお話もあったのですが、具体的に図書館、実際の場に行ってみて、どういうことをしているのかとか、そういったものもまだまだ私自身がよく分かっていないと思imasました。先ほど館長さんのほうからお話があったのですが、我々はもっと知ったうえでPRしていかなければいけないと改めて感じた次第です。

(西村委員)

2期目ということで、だいたい事業の進め方とか評価とか、だいたい飲み込んだつもりなのですがけれども、私は中学校の立場で参加させてもらっているのですが、先ほど中学生が忙しくてなかなか図書館に行かないとか、読書量も減っているという話もしたのでありますがけれども、現状で仕様がなくて、将来的に子どもたちが大人になったときに、読書人生は長く続いていくわけですが。忙しいから仕様がなくてという形で終わらせたくないというのがありますので、そのために、もちろん自分の学校をどうするかという問題があるのですがけれども、西蒲区の中学校長という視点で皆さんと協力してやっていければと思imasしています。学校図書館支援、すごく助かっておりますので、多分司書も感謝していると思imasるので、それらをぜひ充実、発展させていきたいと思imasしています。

(石井委員)

私は中学校で公共図書館の司書から来ていただいて、ブックトークなどをしていただくという連携を取っていたのですがけれども、今現在、中学校の司書さんが在籍していないものから、それをまた復活させたい、図書館と学校をぜひ連携したという思いがすごくあります。

(福島委員)

新しい団体貸出制度の拡大がありますので、ぜひ、地域のお茶の間とか、そのような形でいろいろしたらいいか考えたいと思imas。利用といいますと、やはりいろいろな研究会とか、朗読ということもあるのでありますが、図書館のレファレンスサービスというのがなかなか使

いづらかったのですけれども、私のほうでも伝えていきたいと思っています。よろしくお願ひします。

(大西委員)

いろいろな意見を言わせていただいたりしたのですが、結構自由に皆さんがいろいろな意見を言える場でよかったと思いました。普通だと、何となくみんなシーンとしてしまって、意見がなかなか出にくいというところもあったりするのですが、この雰囲気はすごく大事だろうと思います。みんながいろいろな意見を言えて、図書館を盛り上げていけたらいいと思います。

(桑原委員)

図書館だよりをいつも送っていただいていたのですけれども、キャラクターですかシンボルマークというのがほかのところはかわいいキャラクターがいるのに、なぜ岩室図書館だけがこんななのかと悲しくなるのです。何か公募をするとか、もう少しかわいいキャラクターを考えてあげられたらいいのにと、いつも見るたびに思っています。

(事務局)

公募でそうなったと聞いているのですけれども。

(桑原委員)

ならば、答えようがないです。

(事務局)

ほかの図書館は、当時、西川図書館にいた絵が上手な職員が考えたのです。

(佐藤委員)

先ほど高木委員からお話がありましたが、とにかくこの事業計画にしても、予算にしてもだんだん減っていく中で、いかにしてボランティアをど集めるかということだろうと思っておりますが、ボランティアの人たちというのはどうなのか、小学校なのか中学校なのか、それとも地域全体でどうするのか、いつもこのたよりを見せてもらっている中で、みんなで参加しようという図書館事業ということで私どももしたいと思っておりますけれども、ボランティアを真剣になっってどうやって募集するかということに行き着くまでが難しい。今日の集まりのほかに、それだけに絞っているいろいろ勉強会も必要になってくるのではないかと私は思っております。運営報告とか事業報告とか、そういうのは大事ですけれども、一つの事業をやるためにこうなのだというのを一つ絞って、勉強会をさせてもらえればと思っています。よろしくお願ひいたします。

(高木委員)

私はこういう会があっって、この会で出た意見をまとめて図書館が動いているということが、かなり画期的だと思います。今までこういうことはほとんどない、図書館は図書館、遠い世界のところなのだと、図書館は自分の地域、地元のつながりがほとんどなかったわけです。こ

ういふのがあって、小学校の思ひはこうなのだなど、中学の思ひはこうなのだ、地域の思ひはこうなのだなど、ましてや自分たちの思ひはこうなのだなどというのを集めて、図書館はそれを実際に事業に入れていこうと、あるいは資料を集めていこうという形になっている。こういうのはとても大事なので、本当に発展的に続けていければという感じがしています。

(小林会長)

私、しゃべらないで終わるかなと思ったのですけれども、一言だけ言わせていただきたいと思ひます。

大学も情報センターがありまして、図書館のほうでデータを取っているのですが、やはりほんの少し貸出冊数が下がっているのです。利用を増やすために先生が推薦する本だとか、本を出すと同時に図書館に置くとかいろいろな対応をしています。

それからあと、新入生への図書館ガイダンスを行い、3年生、4年生で卒論研究に入ったときには、研究生なりにいろいろな検索をやったりしているのですが、時間との勝負なのです。その本を使うか、使わないか、検索だとか何かで頭を使う前に指だけでやってしまつて、この奥に入らないで手前で終わってしまうみたいです。ですから、そのあたりで図書とインターネットと共存しながら、ためになるとか、そういったことを真剣に考えなければいけないのかと感じております。

今日は、委員全員から意見をいただきましたし、佐藤さんからは、特にここに座っているだけでは何も解決しないのではないかという、本当に本質的な話も出たと思ひます。なので、とりあえず事務局で預かっていただいて、実現といいますか、どうしたらいいか検討させていただいて、また相談させていただければと思ひます。

あと、よろしければ、いったんここで、この審議のほうはクロージングとしまして、事務局のほうに返したいと思ひます。よろしいでしょうか。